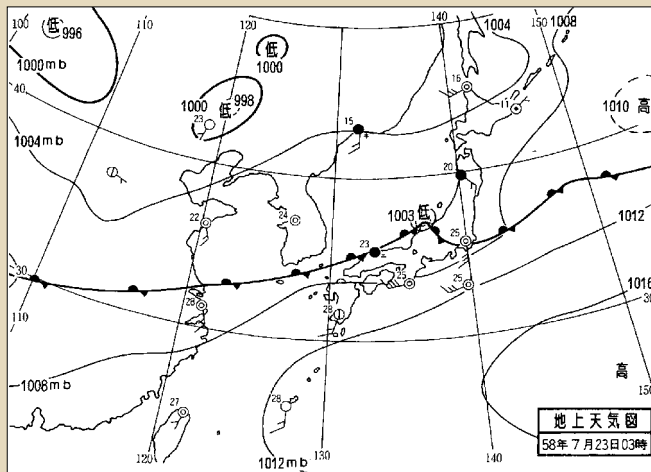


資料3 集中豪雨時の天気図と雲のレーダー写真

昭和58年7月23日午前3時の天気図



資料提供：広島地方気象台

昭和58年7月23日午前3時の雲のレーダー写真



写真提供：気象庁

資料4

気象通報（昭和58年7月23日午前0時35分発表）

大雨・洪水警報、雷雨注意報

梅雨前線の活動が活発となっています。島根県の東部・西部では間もなく雷が発生し落雷のおそれがあります。強い雨が断続し大雨となるおそれがあります。時間雨量30mm～50mmの強い雨が断続するでしょう。これから昼前までの雨量は、70～100mm、ところにより150mm、降り始めから昼前までの総降水量は250～300mmに達するでしょう。今までにかなりの雨が降り、河川は増水し、地盤は軟弱になっています。

河川の増水、はんらん、洪水、低地浸水、山崩れなど十分な警戒をして下さい。今日、昼前には弱くなる見込みです。

気象通報（昭和58年7月23日午前6時40分発表）

大雨・洪水警報、雷雨注意報

梅雨前線の活動が島根付近で活発となっています。島根県の東部・西部では大雨はまだ続き、時間雨量50mm～60mmの強い雨が断続するでしょう。今後の雨量は東部では50～70mm、西部では70mm～100mm、ところにより150mm、降り始めから昼すぎまでの総降水量は300～400mm、多いところは500～600mmに達するでしょう。今までにかなりの雨が降り、河川は増水し、地盤は軟弱になっています。河川のはんらん、洪水、低地浸水、大規模な山崩れ、がけ崩れが起こり大きな災害を引き起こすおそれがありますので、厳重な警戒が必要です。

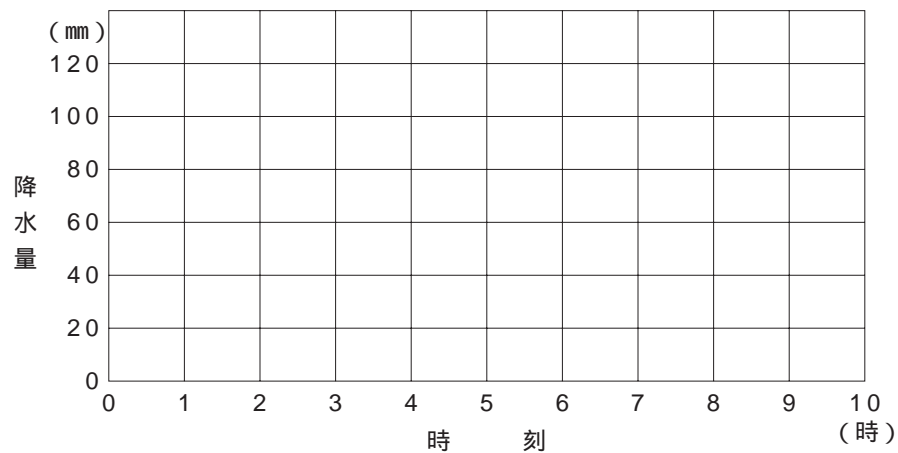
昼過ぎには弱くなる見込みです。

ワーク

1 集中豪雨時のようすをまとめてみよう

日時	年 月 日 (曜日)	グループ	
時間	時 分 ~ 時 分	氏名	
天気		気温	

作業1 資料1の数値をもとに、7月23日午前0時から午前10時までの1時間ごとの降水量を棒グラフで表してみよう。



作業2 資料2の4日間の降水量分布図をみて、500mm以上の雨が降った地域はどこかまとめてみよう。また、その地域の河川名を調べてみよう。

作業3 4日間に、地表面全てに500mm(50cm)の雨が降り、それらの雨が流水となって地表面や川を流れたり、地中にしみ込んだ地域がある。降水量がこのような短期間に集中的に降った場合、どのような現象が起きるのか、グループで話し合ってみよう。

また、昭和58年7月24日の新聞記事を図書館等で探して読んでみて、実際に起きた現象を調べてみよう。

作業4 7月20日から23日にかけての集中豪雨は、どのような時期に、どのような気象条件のもとで発生したのか、まとめてみよう。

出典

<写真、手記、気象データ、新聞の記事等>

- ・写真（土手の決壊）：「フォト直江100年」(斐川町直江公民館)
- ・写真（斐川町洪水）：「昭和47年7月豪雨の災害誌」(島根県)
- ・写真（美郷町洪水）：「昭和47年7月豪雨の災害誌」(島根県)
- ・写真（山崩れ）：「昭和58年7月豪雨災害誌」(建設省中国建設局)
- ・写真（地割れ）：「鳥取県西部地震 伯太町の復興」(伯太町)
- ・写真（津波被害）：「昭和58年耕地災害復旧誌」(島根県)
- ・写真（台風19号被害）：「斐川町誌 その後(三)」(斐川町)
- ・写真（豪雪）：飯南町立小田小学校提供
- ・写真1～4（洪水被害）：「昭和58年豪雨災害誌」(三隅町)
- ・写真5（浸水被害）：「昭和58年豪雨災害10周年事業記念誌」(島根県)
- ・写真6（浸水被害）：「昭和58年7月豪雨災害誌」(建設省中国建設局)
- ・写真7（洪水被害）：「昭和47年7月豪雨の災害誌」(島根県)
- ・手記1：「豪雨災害復興記念誌」(三隅町)
- ・手記2：「豪雨災害復興記念誌」(三隅町)
- ・資料1（降水量データ）：「昭和58年7月豪雨災害の記録」(益田市)
- ・資料3（天気図）：「昭和58年7月豪雨災害 その証言と記録」(電電公社中国電気通信局)
- ・資料3（雲のレーダー写真）：「昭和58年7月豪雨災害の記録」(益田市)
- ・資料4（気象通報）：「昭和58年7月豪雨災害の記録」(島根県)